

横浜市インフルエンザ流行情報 14号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

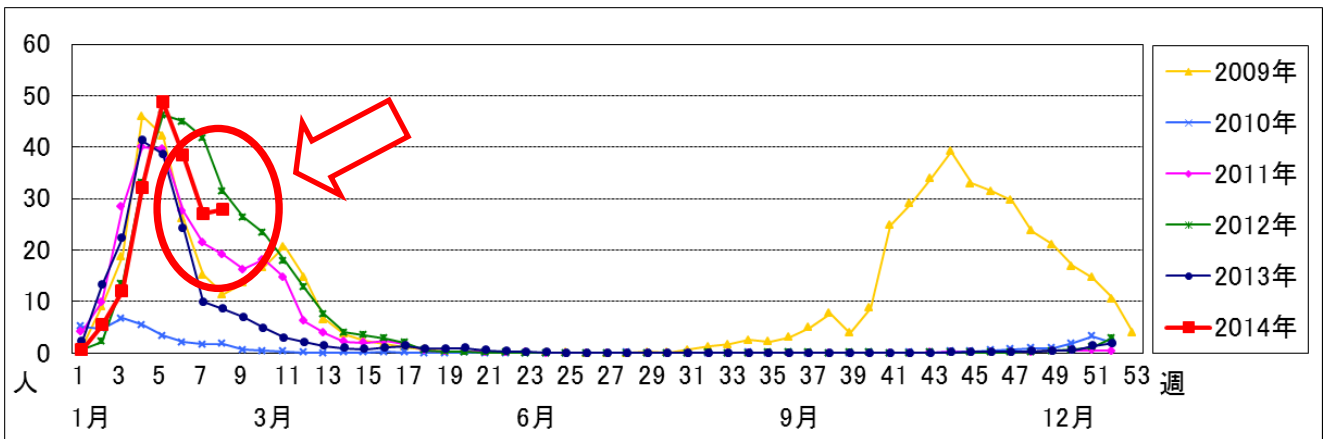
《トピックス》

- **B型の報告が増えた**影響で、先週より**定点^{※1}あたりの報告数が増加**しました。まだしばらくインフルエンザの流行は続きそうです。
- 感染予防や早期受診などの**対策^{※2}**が重要です。

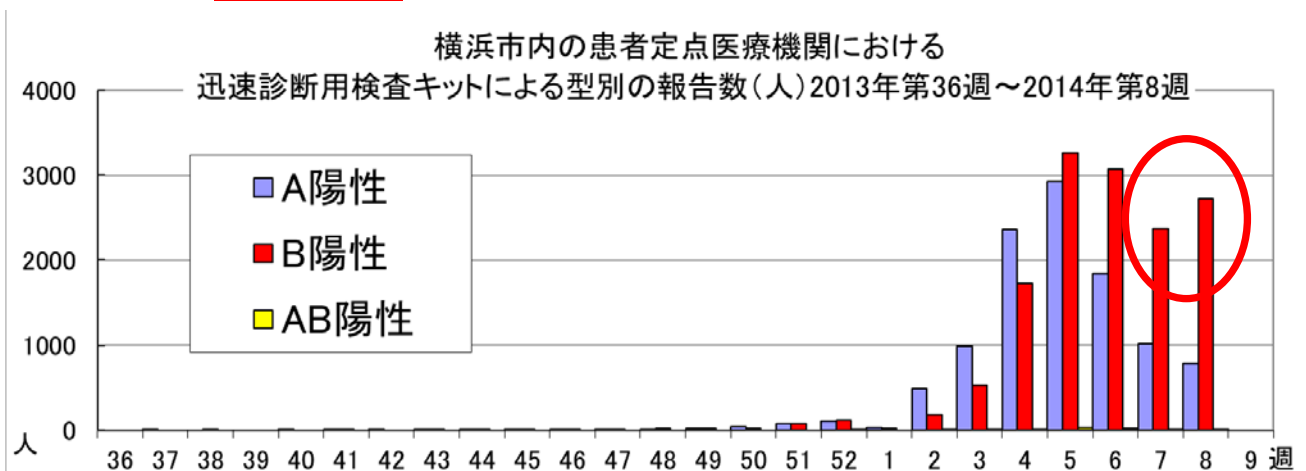
※1 定点・定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内152か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

※2 [インフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

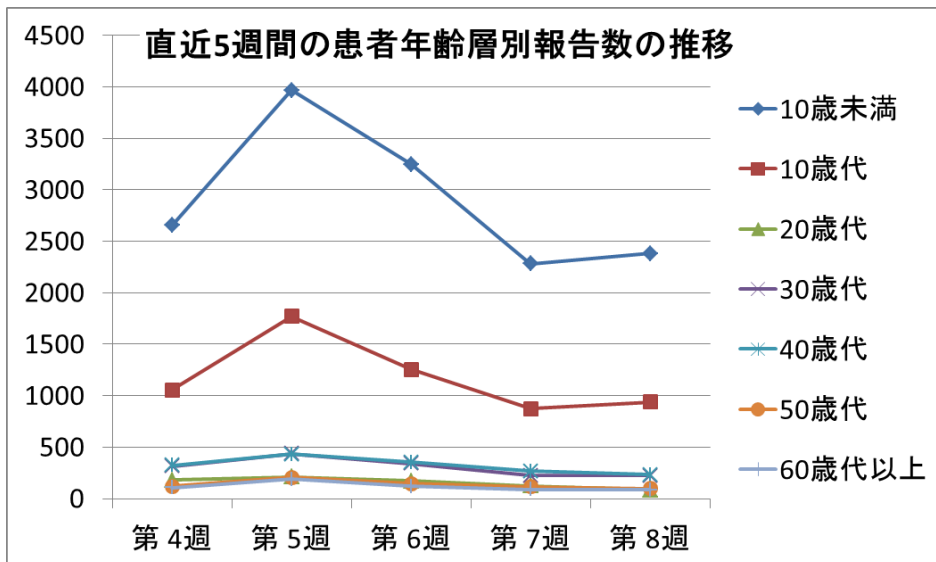
1 **市内流行状況**:市全体の定点あたりの患者報告数は、第5週(1月27日~2月2日)の48.74以降減少を続けていましたが、第8週(2月17日~23日)は**27.90**と、前週の27.05からやや上昇に転じました。B型の増加による影響と考えられます。区別では、最も多いのが**緑区 41.86**で、次に**神奈川区 40.30**となっています。**高齢者施設**や**医療機関**での集団感染も報告されており、注意が必要です。



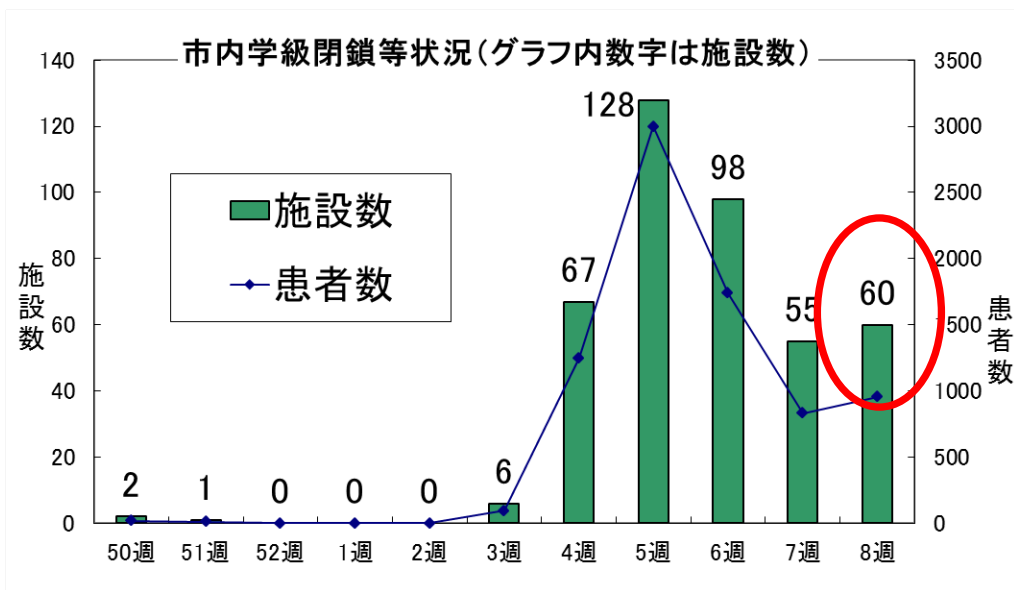
2 **迅速キット結果**:第5週以降A型、B型ともに減少していましたが、第8週は**B型が増加に転じました**。A型は引き続き減少しています。第8週はA型22.3%、B型77.6%、A型B型ともに陽性0.1%と、**B型が8割弱**を占めています。



3 年齢層別集計:直近5週間の患者年齢層別報告数では、第5週以降10歳未満と10歳代が特に減少していましたが、第8週ではどちらも増加に転じました。

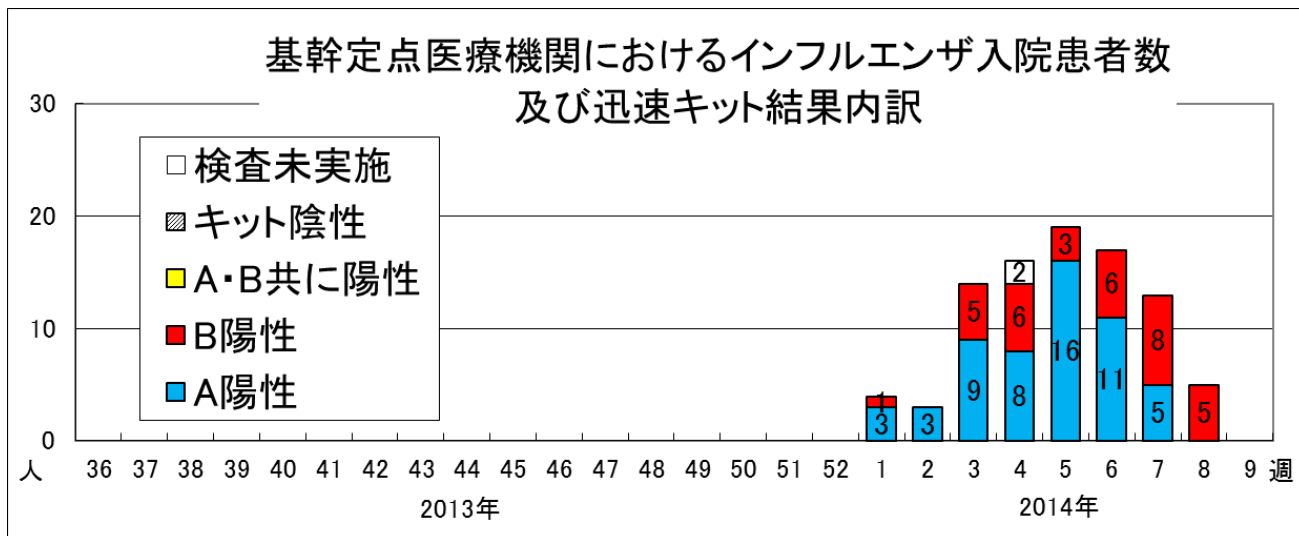


4 市内学級閉鎖等状況:閉鎖施設数は第5週をピークに減少が続いていましたが、第8週は増加に転じました。第8週の施設種別では、小学校54件、幼稚園3件、中学校2件、高校1件でした。



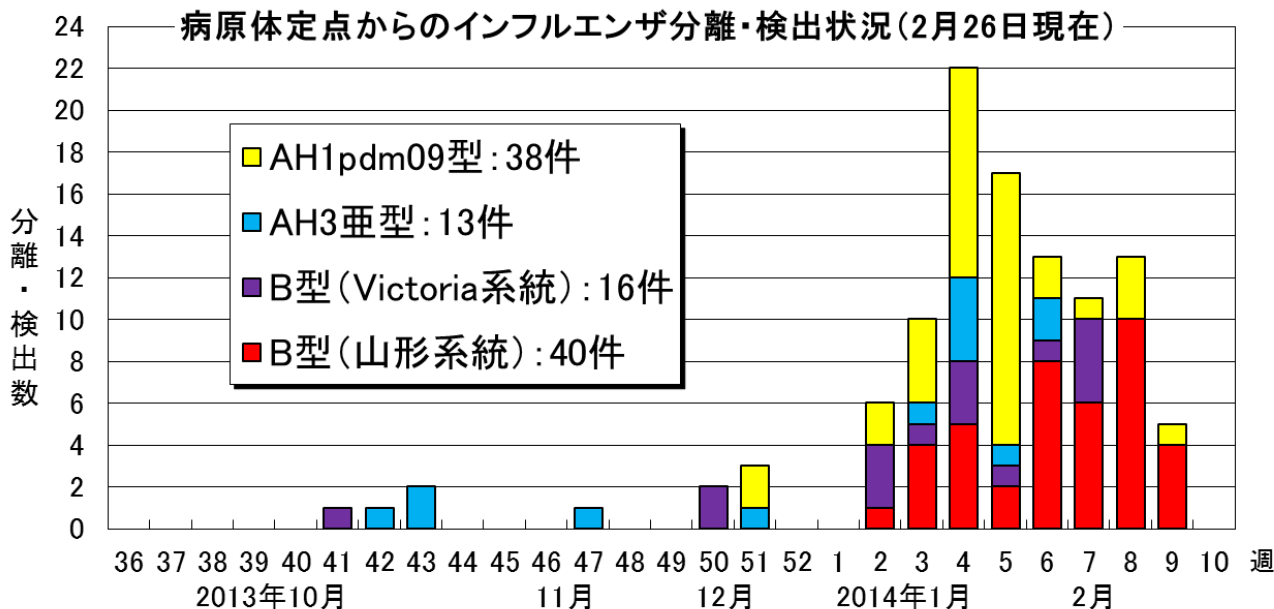
5 入院サーベイランス:基幹定点医療機関^{※3}における、インフルエンザの入院患者数は第5週以降減少し、迅速キットの内訳では徐々にB型の割合が増加しています。

※3 基幹定点:患者を300人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には4つの基幹定点があります。



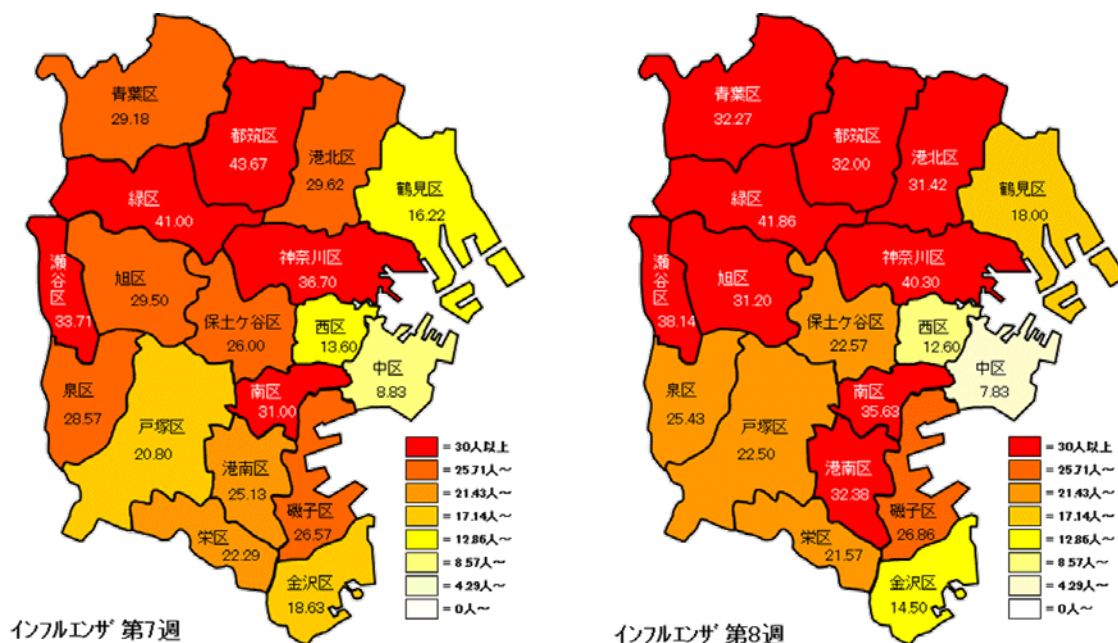
6 インフルエンザ脳症:第4週に幼児の報告が2件(AH1pdm09型およびAH3亜型)ありました。長野県では生来健康な9歳児がインフルエンザ脳症を発症し、**発症から2日目に死亡した事例**が報告されており、注意が必要です。

7 市内病原体検出状況:市内では病原体定点から今シーズン計107件インフルエンザウイルスが分離・検出されています。第6週以降B型、特に**山形系統**が多く検出されています。なお、Victoria系統は今シーズンのワクチンに含まれていません。



8 分離株の耐性検査:衛生研究所でAH1pdm09型の61株を検査したところ、耐性ミックス株(275H/Y)(注:薬剤治療中または治療後の患者の検体からは、薬剤により耐性が誘導された株と通常の株がミックスされたもの(耐性ミックス株)が検出されることがあります。通常はそのウイルスが地域で流行することはありません。最近話題になっている耐性株とは異なります。)が3株見つっていますが、**耐性株(275Y)は見つかっていません。**

9 区別流行マップ



【お問い合わせ先】横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(754)9815